

中央図書館には、約五十万冊の蔵書があり、多くの市民の皆さんが訪れています。

同図書館には、訪れる皆さんを見守るかのように入り口付近に「ふれあいの像」があります。昭和六十三年に建てられたこの像は、川越出身の彫刻家・橋本次郎によって制作されました。

れんがブロック造りの壁の前に建つ青銅色の像は、周りの風景に溶け込み、落ち着いた雰囲気を感じ出しています。西を向いて、まるで日差しを手で遮っているかのように両手を上げ、遠くの事を知ろうとしているかのように見えました。

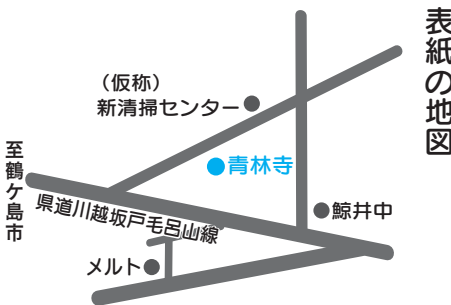


ふれあいの像 橋本次郎作

どんぐり

編集後記

昔、広報川越を読んでいて、簡単な漢字もひらがなで書いてあることが不思議でした。広報室に配属になりその謎が判明。表記に基準があることを知りました▶1月16日、常用漢字表に追加予定の191字が発表されました。広報川越の表記は常用漢字表が基準になっています。新しい漢字表は来年に告示される予定です。今まで広報川越では、「私」は「わたくし」としか読むことができませんでした。来年以降は「わたし」とも読むことができそうです (HA)



表紙の地図



ノースポール



市役所本庁舎玄関前を飾るプランターの中に、菊のような花が咲いているのをご存じですか？ 名前はノースポール。深い緑色をした葉と、黄色と白が鮮やかな花は、寒さでまだ咲いている花があまりなく、彩りの少ないこの季節の中で目を引きます。比較的寒さに強く、十二月ごろから五月初まで花を咲かせます。原産はアフリカ北部で、四十年ほど前に日本に伝えられました。

花の名前は、四月ごろになると株全体を真っ白な花びらが覆い、「北極」を連想させるところから付いたといわれています。